

近畿農政局
和歌山県拠点撮影

◆◆ 主な内容 ◆◆

春を呼ぶ… 梅の花（和歌山県田辺市）

和歌山県田辺市で梅を栽培し、農業現場において知的財産の保護に取り組む「和×夢nagomu farm ⑧」の八代目園主として、平成17年に父親が品種開発した梅「ミスなでしこ⑧」を後世に残る品種にする「夢」を掲げ、活動をしておられる那須 誠さんにお話を伺いました。

表紙の写真は、那須さんが栽培される、「和夢なでしこ」（平成22年）、「ミスなでしこ⑧」と「紅梅」の人工交配により誕生した品種（令和元年に品種登録）の開花状況です。

「和夢なでしこ」は、①花びらが多数あり薄ピンク色であること、②双子や三つ子着果すること、③果実は「ミスなでしこ⑧」と同様に果皮が梅紫色に着色することが特徴です。

インフォメーション

- 「第1回みどり技術ネットワーク全国会議」を開催します！

【農政局からのお知らせ】

- 作物統計調査 令和5年産茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）
- 「みどり戦略学生チャレンジ（近畿大会）」参加登録を受け付けています！
- 今月のおすすめ BUZZMAFF との近畿「知事特製のふなずしを食べてみた」～琵琶湖より愛をこめて～をアップ～

トピックス

- 地域の農林水産物「淡路島3年とらふぐ」を地理的表示（GI）として登録！

「第1回みどり技術ネットワーク 全国会議」を開催します！

農林水産省は、みどりの食料システム戦略の実現に貢献する技術の社会実装を一層促進するため、「みどりの食料システム戦略技術カタログ」掲載技術の社会実装をテーマとした、「第1回みどり技術ネットワーク全国会議」を開催します。

みどり技術に関心のある方は、どなたでも参加いただけます。皆さまの参加をお待ちしております。

1.概要

みどりの食料システム戦略の実現に向けて、戦略で掲げた各目標の達成に貢献し、現場への普及が期待される技術について、「みどりの食料システム戦略技術カタログ」としてとりまとめています。「第1回みどり技術ネットワーク全国会議」では、これらの技術の産地への横展開と更なる普及、改良を目指し、カタログ掲載技術の紹介や、農業者も含めたパネルディスカッションを実施します。
※本会議は、昨年開催された「みどり技術ネットワーク会議（全国9ブロック）」を受けて、初めて実施するものです。

詳しい内容及び申し込みは、以下のパンフレットをご覧ください。

第1回 みどり技術 ネットワーク 全国会議

みどりの食料システム戦略

の実現に向けて、現場への普及が期待される技術について、「みどりの食料システム戦略技術カタログ」としてとりまとめています。

本イベントでは、これらの技術の産地への横展開と更なる普及、改良を目指し、カタログ掲載技術の紹介や、農業者も含めたパネルディスカッションを実施します。
※本イベントは、昨年開催された「みどり技術ネットワーク会議（全国9ブロック）」を受けて、初めて実施するものです。

申し込みはこちら



会場参加



オンライン参加

(申込期限:3月8日17時) (申込期限:なし)

～プログラム～

- (1) 開会挨拶 農林水産省 大臣官房技術総括審議官 兼 農林水産技術会議事務局長 川合 豊彦
- (2) 趣旨説明 農林水産省 大臣官房政策課 技術政策室長 齊賀 大昌
- (3) 講演
 - ・低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒法（中国四国ブロック） 農研機構 小原 裕三 氏
高知県 西 林太郎 氏
 - ・広域ドローンセンシングによる大麦・大豆の収量向上（北陸ブロック） 株式会社オプティム 丸山 毅 氏
 - ・高効率水田用除草機を活用した水稻有機栽培体系（東北ブロック） TDK株式会社 村上 智 氏
秋田県にかほ市 見留 英介 氏
 - ・アミノ酸バランス改善飼料による牛排せつ物由来の温室効果ガス削減 栃木県 福島 正人 氏
株式会社前田牧場 齋藤 順子 氏
 - ・野菜用高速局所施肥機（九州ブロック） 農研機構 千葉 大基 氏
鹿児島県 加藤 安弘 氏
 - ・二ホンナシにおける天敵カブリダニを主体としたハダニ類のIPM（近畿ブロック） 農研機構 外山 晶敏 氏
滋賀県 村井 公亮 氏
- (4) パネルディスカッション ～みどり技術の産地への横展開と更なる普及・改良を目指して～
モデレーター：農研機構 根角 厚司 氏
パネリスト：上記講演者のうち数名
話題提供：農研機構 西村 誠一 氏（水稻栽培における中干し期間の延長）
- (5) 閉会挨拶 農林水産省 大臣官房審議官（技術・環境） 秋葉 一彦



「みどり技術ネットワーク会議」の開催

- ・全国9ブロックで開催（来年2-3月に本省でも開催予定）
- ・カタログ掲載技術の紹介や、開発者も含めたパネルディスカッションを実施

<実際の会議の様子>



東北地域：2023年12月13日（水）、参加者 約110名



近畿地域：2023年12月5日（火）、参加者 約160名



九州地域：2023年12月14日（木）、参加者 約180名



沖縄：2023年11月15日（水）、参加者 約90名

天敵資源、バイオ炭、生分解性マルチに関する報告及び意見交換

サツマイモ基腐病菌のリアルタイムPCR検出技術に関するパネルディスカッション

九州地域：2023年12月14日（木）、参加者 約180名

沖縄：2023年11月15日（水）、参加者 約90名

天敵資源、バイオ炭、生分解性マルチに関する報告及び意見交換

サツマイモ基腐病菌のリアルタイムPCR検出技術に関するパネルディスカッション

九州地域：2023年12月14日（木）、参加者 約180名

沖縄：2023年11月15日（水）、参加者 約90名

天敵資源、バイオ炭、生分解性マルチに関する報告及び意見交換

サツマイモ基腐病菌のリアルタイムPCR検出技術に関するパネルディスカッション

九州地域：2023年12月14日（木）、参加者 約180名

沖縄：2023年11月15日（水）、参加者 約90名

天敵資源、バイオ炭、生分解性マルチに関する報告及び意見交換

サツマイモ基腐病菌のリアルタイムPCR検出技術に関するパネルディスカッション

九州地域：2023年12月14日（木）、参加者 約180名

沖縄：2023年11月15日（水）、参加者 約90名

天敵資源、バイオ炭、生分解性マルチに関する報告及び意見交換

サツマイモ基腐病菌のリアルタイムPCR検出技術に関するパネルディスカッション

九州地域：2023年12月14日（木）、参加者 約180名

沖縄：2023年11月15日（水）、参加者 約90名

天敵資源、バイオ炭、生分解性マルチに関する報告及び意見交換

サツマイモ基腐病菌のリアルタイムPCR検出技術に関するパネルディスカッション

九州地域：2023年12月14日（木）、参加者 約180名

沖縄：2023年11月15日（水）、参加者 約90名

天敵資源、バイオ炭、生分解性マルチに関する報告及び意見交換

サツマイモ基腐病菌のリアルタイムPCR検出技術に関するパネルディスカッション

九州地域：2023年12月14日（木）、参加者 約180名

沖縄：2023年11月15日（水）、参加者 約90名

天敵資源、バイオ炭、生分解性マルチに関する報告及び意見交換

サツマイモ基腐病菌のリアルタイムPCR検出技術に関するパネルディスカッション

九州地域：2023年12月14日（木）、参加者 約180名

沖縄：2023年11月15日（水）、参加者 約90名

天敵資源、バイオ炭、生分解性マルチに関する報告及び意見交換

サツマイモ基腐病菌のリアルタイムPCR検出技術に関するパネルディスカッション

九州地域：2023年12月14日（木）、参加者 約180名

沖縄：2023年11月15日（水）、参加者 約90名

天敵資源、バイオ炭、生分解性マルチに関する報告及び意見交換

サツマイモ基腐病菌のリアルタイムPCR検出技術に関するパネルディスカッション

九州地域：2023年12月14日（木）、参加者 約180名

沖縄：2023年11月15日（水）、参加者 約90名

天敵資源、バイオ炭、生分解性マルチに関する報告及び意見交換

サツマイモ基腐病菌のリアルタイムPCR検出技術に関するパネルディスカッション

九州地域：2023年12月14日（木）、参加者 約180名

沖縄：2023年11月15日（水）、参加者 約90名

天敵資源、バイオ炭、生分解性マルチに関する報告及び意見交換

サツマイモ基腐病菌のリアルタイムPCR検出技術に関するパネルディスカッション

九州地域：2023年12月14日（木）、参加者 約180名

沖縄：2023年11月15日（水）、参加者 約90名

天敵資源、バイオ炭、生分解性マルチに関する報告及び意見交換

サツマイモ基腐病菌のリアルタイムPCR検出技術に関するパネルディスカッション

詳しくはこちら
（農林水産省ホームページ）

<https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/kihyo03/240215.html>



農政局からの お知らせ

統計情報

◆作物統計調査 令和5年産茶の 摘採面積、生葉収穫量及び荒茶 生産量（主産県）

- － 主産県の荒茶生産量は6万8,000 tで、前年産に
比ベ3%減少 －

【調査結果の概要】



1 摘採実面積

主産県の茶の摘採実面積は2万7,200haで、
前年産に比ベ600ha（2%）減少しました。

2 生葉収穫量

主産県の茶の生葉収穫量は32万 t で、前年産
に比ベ1万1,100 t（3%）減少しました。

3 荒茶生産量

主産県の荒茶生産量は6万8,000 t で、前年産
に比ベ1,900 t（3%）減少しました。

【統計表】

令和5年産茶の摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

都道府県	実 数									
	年 間 計					一 番 茶				
	摘採 実面 積 ha	摘採 実面 積 ha	10a 当生 葉収 量 kg	生葉 収量 t	荒茶 生産 量 t	摘採 実面 積 ha	10a 当生 葉収 量 kg	生葉 収量 t	荒茶 生産 量 t	茶葉 生産 量 t
主産県計	27,200	69,400	1,180	320,000	68,000	27,100	440	119,300	23,500	
埼玉	543	882	648	3,520	793	543	378	2,040	428	
静岡	11,800	27,200	1,030	122,000	27,200	11,800	383	45,200	9,060	
三重	2,280	4,780	1,120	25,600	5,220	2,280	434	9,900	1,960	
京都	1,400	2,760	914	12,800	2,640	1,370	398	5,450	1,110	
福岡	1,430	2,690	635	9,080	1,750	1,430	337	4,820	901	
熊本	870	1,590	733	6,380	1,320	870	354	3,080	622	
宮崎	1,030	3,110	1,370	14,100	2,940	1,030	471	4,850	970	
鹿児島	7,810	26,400	1,620	126,500	26,100	7,810	564	44,000	8,440	

- 注：1 主産県とは、直近の全国調査年（令和2年）における全国の茶栽培面積のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県及び茶の畑作物共済事業を実施し、半相殺方式を採用している都道府県である。
2 10a当たり生葉収量とは、生葉収穫量を摘採実面積（一番茶は摘採面積）で除して求めたものである。

詳しくはこちら（農林水産省ホームページ）
https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y16



お問合せ先

◎本統計調査結果について
 農林水産省 大臣官房統計部
 生産流通消費統計課 普通作物統計班
 電話：（代表）03-3502-8111 内線3682
 （直通）03-3502-5687

◎農林水産統計全般について
 農林水産省 大臣官房統計部
 統計企画管理官 統計広報推進班
 電話：（代表）03-3502-8111 内線3589
 （直通）03-6744-2037



政府統計
 政府統計の総合窓口
 (e-Stat)
<https://www.e-stat.go.jp/>

◆「みどり戦略学生チャレンジ（近畿大会）」 参加登録を受け付けています！

近畿農政局は、近畿地域（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）の学生の皆さんによる「みどりの食料システム戦略」に基づく取組の成果を募集しています。

また、その取組成果を発表いただく「みどり戦略学生チャレンジ近畿大会」取組発表会（交流会）を開催するとともに、表彰を予定しています。

対象となる学校、取組内容、取組実施期間等、詳しくはこちら（近畿農政局ホームページ）



<https://www.maff.go.jp/kinki/midori/kinkigakuseichallenge.html>

応募される場合は、令和6年1月9日から5月31日までに、以下のアドレスに必要事項を入力し、送信してください。

参加登録（参加宣言）フォーム



https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/kankyo/midori_challenge.html

【参考】みどりの食料システム戦略

生産者、事業者、消費者それぞれの理解と協働により、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現。

<https://www.maff.go.jp/kinki/keikaku/senryaku/210825.html>



◆今月のお勧め BUZZMAFFとなりの近畿

「知事特製のふなずしを食べてみた」～琵琶湖より愛をこめて～"をアップ

あの決めポーズ！も
ご覧ください！！



おいしいは正義
（琵琶湖の魅力を届けたい！）



YouTubeで絶賛公開中！詳しくはこちらを見てね
 （近畿農政局ホームページ）

<https://www.maff.go.jp/kinki/photo/kekka/video/b10.html>



地域の農林水産物「淡路島3年とらふぐ」を地理的表示（GI）として登録！

地理的表示（GI）保護制度は、その地域ならではの自然的、人文的、社会的な要因・環境の中で育まれてきた品質、社会的評価等を有する農林水産物・食品の名称を、その地域における知的財産として保護するものです。

農林水産省は、学識経験者からの意見聴取等を経て、令和6年1月29日（月曜日）に、地理的表示法に基づき、以下の産品を地理的表示として登録（登録番号第140号から145号まで）しましたので、お知らせします。

登録番号	名称	登録生産者団体	生産地 (国名及び都道府県のみ)
140	ぐしちゃんピーマン	沖縄県農業協同組合	沖縄県
141	大野豆	大野豆プロジェクト	香川県
142	青森の黒にんにく	協同組合青森県 黒にんにく協会	青森県
143	備前黒皮かぼちゃ	備前黒皮かぼちゃ振興 協議会	岡山県
144	淡路島3年とらふぐ	福良漁業協同組合	兵庫県
145	西わらび	西和賀わらび生産販売 ネットワーク	岩手県

今回の近畿管内（兵庫県4産品目）GI登録

これまでの兵庫県のGI登録

第2号 但馬牛

第3号 神戸ビーフ

第78号 佐用もち大豆



詳しくはこちら（近畿農政局ホームページ）
https://www.maff.go.jp/kinki/press/keiei/tiiki_syokuhin/240129.html



【お問合せ先】

近畿農政局経営・事業支援部輸出促進課
 担当者：知的財産担当
 TEL：075-414-9025

あわじしまねん
淡路島3年とらふぐ

生産地：兵庫県淡路島福良湾
登録団体：福良漁業協同組合

農林水産大臣登録第144号

特性
 一般的な養殖とらふぐの1.5～2倍と大きく、引き締まった身質と歯ごたえ、濃厚な味などが需要者から評価され高値で取引。
 「とらふぐ」目当ての観光客が増えるなど、冬の淡路島を代表するブランドとして定着。

地域との結び付き
 困難といわれる3年養殖に漁業者が一丸となって取り組んだことで長期養殖の技術が向上するとともに、地域の観光、宿泊、飲食業など多様な関係者と連携したPRを継続し、「3年とらふぐ」の産業化に全国で初めて成功。
 鳴門海峡の日本一速い潮流の影響を受け、とらふぐの運動量が増えることで身質等が向上。

福良漁業協同組合 兵庫県南あわじ市福良丙28
 ※GI登録時現在の情報のため、詳細は農林水産省HPを参照。

農林水産省近畿農政局

近畿農政局 HP →



企画調整室	〒602-8054 京都市上京区西洞院通下長者町下る丁子風呂呂町
滋賀県拠点	〒520-0044 大津市京町3-1-1 大津びわ湖合同庁舎6F
京都府拠点	〒602-8054 京都市上京区西洞院通下長者町下る丁子風呂呂町
大阪府拠点	〒540-0008 大阪市中央区大手前1-5-44 大阪合同庁舎1号館6F
兵庫県拠点	〒650-0024 神戸市中央区海岸通29 神戸地方合同庁舎4F
奈良県拠点	〒630-8113 奈良市法蓮町387 奈良第3地方合同庁舎3F
和歌山県拠点	〒640-8143 和歌山市二番丁3 和歌山地方合同庁舎5F

TEL(075)451-9161
TEL(077)522-4261
TEL(075)414-9015
TEL(06)6943-9691
TEL(078)331-9941
TEL(0742)32-1870
TEL(073)436-3831

近畿農政局
メールマガジン

